

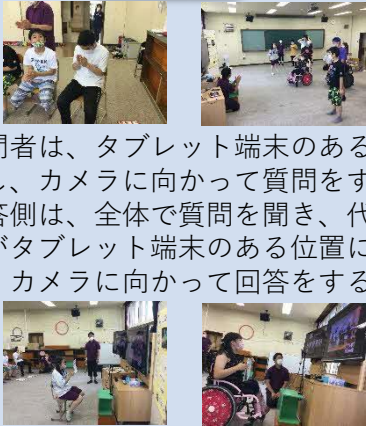
主体的・対話的で
深い学びのポイント

自己紹介や質問などを通じて交流することで、自分自身や学校のことを伝えたり、相手のことを知ることができる。

ICT活用のポイント

- ・オンラインを活用することで、遠方にいる相手との交流を実現する。
- ・オンラインを活用した学習を通して、ICT機器が身近な道具の一つになるようにする。

使用するICT機器	タブレット テレビ	使用するアプリ・クラウドサービス等	Zoom Keynote
クラウドの活用	□教材の配布・回収等 □生徒の学習状況の把握	□資料等の共有 □その他（ ）	

本時のねらい	・自己紹介や質問などをして、自分や住んでいる地域のことを伝えることができる。 ・相手の発表を聞き、相手校の地域について知ったり、興味を持ったりすることができる。		
	主な学習活動 (学習場面)	ICTの活用・留意点等	評価
導入	○はじめの挨拶 ○自己紹介 一斉 個別 協働	タブレット端末を使用し、相手校とZoomで繋ぎ、画面上に会場全体を映し出す。 ・順番にタブレット端末のある位置に移動し、カメラに向かって、自己紹介をする。  ICT機器 指針2 指針3 指針5 ここで評価	【思】相手に伝わるように発表することができる 【態】自己紹介をしている自校の友達や相手校の生徒に視線を向けたり、拍手などの応援をしたりすることができる。
	○みんなで発表 一斉 協働 ○質問タイム 一斉 個別 協働	・相手校→自校の順で発表をする。 発表する側は、画面上に会場全体を映し出し、地域の伝統的な踊りや学習で取り組んだダンスを発表する。 見る側も、画面上に会場全体を映し出し、相手校の発表を見たり、手拍手などをしたりする。 質問者は、タブレット端末のある位置に移動し、カメラに向かって質問をする。 回答側は、全体で質問を聞き、代表の回答者がタブレット端末のある位置に移動して、カメラに向かって回答をする。  ICT機器 指針3 指針2 ここで評価 指針3 指針2 ここで評価	【知】練習してきた振り付けを思い出し、体を動かすことができる。 【態】発表に取り組んでいる相手校の生徒に視線を向けたり、手拍手をしたりすることができる。 【思】質問や回答を相手に伝わるように発表することができる 【態】質問者や回答者の発表を聞いたり、視線を向けたりしている。
終末	○本時の振り返り 一斉 協働	お互い画面上に全体を映し出し、本時の交流について振り返りを行い、手を振ってさようならの挨拶をする。 ICT機器 ここで評価	【思】交流会について振り返り、自分の考えを表現している。

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。

※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。

※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度